

## エマージングマーケットウィークリー

国際為替部

多田出 健太

03-3242-7065

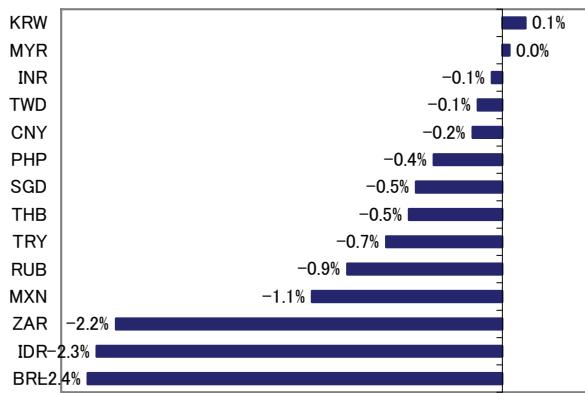
kenta.tadaide@mizuho-cb.co.jp

### 今週のエマージングマーケット

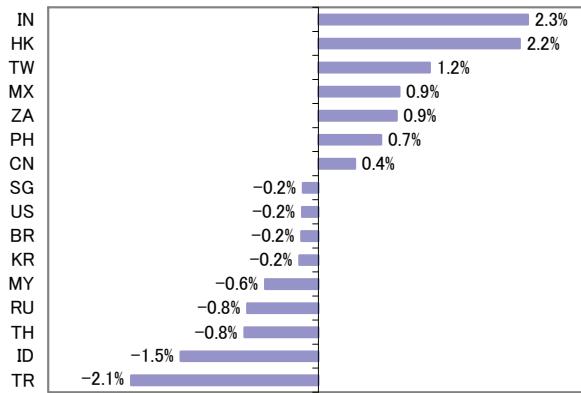
#### FOMCとドルショートカバー

週初 28 日のアジア時間は、前週末にマレーシアのナジブ首相が 2014 年度予算案と合わせて消費税に当たる物品・サービス税 (GST) を 2015 年 4 月に導入すると発表したことを受け、MYR は約 4 か月ぶり高値をつけた。KRW もこれまでの流れを引き継ぎ底堅い値動きであったが、29 ~30 日の FOMC を控えてアジア通貨は方向感の出難い展開。欧米時間に入ると、徐々に FOMC を控えたポジション調整の動きが強まり、ドルのショートカバーからエマージング通貨は利食い売りが優勢となった。翌 29 日はインド準備銀行 (RBI) が利上げを決定したことで INR は上昇したもの、為替市場全般の流れは変わらず、エマージング通貨は利食い売りに押されて軟調に推移した。30 日のアジア時間も、FOMC の結果を控えてポジションを手仕舞う動きが続き、アジア通貨は弱含んだものの、スペイン 7~9 月期 GDP が約 2 年ぶりにプラス成長となると、ユーロが上昇する動きにエマージング通貨も連れ高となった。だが、注目の FOMC では、予想通り tapering 見送りが決定された一方、声明文が予想ほどハト派寄りではないと受け止められ、ドル買い戻しが強まる流れに。翌 31 日は、ユーロ圏 10 月消費者物価指数 (HICP) が予想以上に低下し、ECB による利下げ観測が強まりユーロが売られると、エマージング通貨は一段と値を下げた。こうした状況下、BRL、IDR、ZAR の 3 通貨が▲2%超の下落となるなど、大半のエマージング通貨が値を下げた。

エマージング通貨騰落率(対ドル)



エマージング株式騰落率



(注)US: 米国S&P500種指数、KR: 韓国総合株価指数、TW: 台湾加権指数、HK: 香港ハンセン指数、CN: 中国上海総合指数

SG: シンガポールST指数、TH: タイSET指数、ID: インドネシアジャカルタ総合指数、MY: マレーシアFTSEブルサマレーシアKLCIインデックス

PH: フィリピン総合指数、IN: インドSENSEX30種指数、TR: トルコイスタンブルナショナル100種指数

RU: ロシアRTS指数、ZA: 南アフリカFTSE/JSEアフリカ全株指数、BR: ブラジルボベスパ指数、MX: メキシコボルサ指数

(資料) Bloomberg

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようにお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。

## 来週のエマージングマーケット

### ECB 理事会と米雇用統計

9月 tapering 見送りと財政問題がもたらしたドル売り

9月 FOMC における予想外に tapering が見送られたことに加え、何とか決着した米財政協議の合意内容が問題の先送りに過ぎず、騒動で米景気の先行き不透明感が高まったこともあって、ドルを積極的には買い進め難い時間帯が続いてきた。また、次期 FRB 議長にイエレン FRB 副議長が指名されたことで米金融緩和が長期化するとの憶測も、ドルを手放す動きを後押しした。

エマージング通貨は買い戻されたが、上値の重さも

為替市場では、ユーロがおよそ 2 年ぶりの高値まで上昇するなど、メジャー通貨を中心にドル売りが優勢となり、エマージング通貨についても 9 月から堅調に推移する通貨が目立った。但し、10 月以降は横ばい圏で揉み合う通貨も目立ち、上値の重さも意識される値動きであった。

12月 tapering 開始の可能性を残した 10月 FOMC

tapering 観測が浮上して売られたエマージング通貨の戻りが弱い背景としては、遅くとも年明けには tapering スタートが見えているということである。しかも、10月 29~30 日に開催された FOMC では、市場で一部が期待を寄せていたハト派方向への傾斜はみられず、依然として 12 月会合における tapering の可能性も残した。今後発表される経済指標には政府機関閉鎖の影響が表れてくると予想され、景気判断が難しくなると考えられるほか、9月 FOMC における tapering 先送りが政治動向を意識しての判断だったと考えた場合、今後の政治スケジュールに照らせば、12 月や 1 月 FOMC での金融政策の変更は不確実性が高い。市場では早くとも tapering スタートは 3 月まで持ち越しとの見方が多いが、10月 FOMC を受けて、可能性は小さいにしても 12 月 tapering スタートの可能性を意識せざるを得ず、エマージング通貨の買い戻し余地は一段と狭まったと言えよう。

浮上した ECB 利下げ観測

また、足許で浮上した ECB の利下げ観測がエマージング通貨の上値を押さえる可能性がある。10月 31 日に発表されたユーロ圏 10月消費者物価指数が前年比 0.7% 上昇と約 4 年ぶりの低水準となり、ECB の掲げる物価安定目標を明確に下回る水準に落ち込む中、利下げを予想する声が強まっている。7日（木）に開催される ECB 理事会において利下げが決定されるとは予想しないものの、理事会において次のオプションとして利下げが議論されていることも事実である。上述したように、ユーロはドル売りの裏側で 2 年ぶり高値圏まで上昇しており、10月理事会後の記者会見では、ドラギ ECB 総裁が 2 月以来初めてユーロ急騰について言及す

る動きもみられている。ユーロ相場にもう一段調整の調整が入る場合には、ユーロ売り・ドル買いの流れにエマージング通貨も圧迫される可能性があろう。

来週は 7 日（木）の ECB 理事会に加え、8 日（金）には米 10 月雇用統計の発表も控えており、ポジションを傾け難い。月初は新興国において消費者物価等の重要指標が発表される国も多く、ヘッドラインには注意したいところである。

#### 新興国では為替介入か

10 月以降、膠着感の強まっているエマージング通貨も多いが、当局による為替介入が上値を押さえている通貨もありそうである。例えば、フィリピン中銀のテタンコ総裁は 10 月 31 日に「中銀は過度のボラティリティに備え市場動向を注視している。中銀は市場での存在感を適切に維持する。」とのメッセージを発信している。同総裁はペソ相場の水準ではなく、tapering 観測の前進・後退を背景にボラティリティが高まる 것을懸念している模様だが、7 月 29 日に同総裁が 1 ドル=42~44 ペソが「良いレンジだ」と述べていたことも頭の片隅には置いておきたい。

また、韓国ウォンは 10 月に年初来高値を更新しているが、韓国企画財政部高官から「現在のウォン高はやや行き過ぎ」といった発言が聞かれている。韓国ウォンを筆頭に東アジア通貨は経常黒字を背景としたドル売り・自国通貨買い需給を裏づけとして買い進められていると思われるが、当局の介入によって上値を押さえられる可能性がある。

#### 米為替政策報告書の提出

そうした中、10 月 30 日に米財務省は政府機関閉鎖に発表が遅れていた半期に 1 度の『国際経済と為替政策に関する報告書（為替政策報告書）』を議会に提出している。近年の同報告書における関心は主に中国を「為替操作国」として認定するかどうかであるが、今回も見送られた。また、これまでの報告書では中国の為替政策を批判することがメインだったが、今回はドイツに対する批判が目立つという新しい動きもみられている。

#### 高まるドイツ批判

ドイツの為替政策については本欄の趣旨からは外れるため詳述しないが、報告書では、ドイツは欧州債務危機の最中においても経常黒字を維持し、2012 年の経常黒字額は中国よりも大きかったと指摘。ドイツの内需の伸び悩みと輸出依存は、他の多くのユーロ圏諸国が必要を抑制し、調整を促進するための輸入を圧縮する際に厳しい圧力をもたらし、ユーロ圏経済のリバランスを妨げている等の記述がみられる。

上述したように、今回の報告書においては中国よりもドイツに対する批判が目立つ印象だが（冒頭の Key Findings の欄で中国よりも先にドイツのことが触れられている）、これまでと同様、中国について論じるために多くの紙幅が割かれていることに表れているように、中国が重要なことは変わっていないだろう。

#### 中国批判に目新しさなし

中国について詳しくみていくと、人民元は実効為替レートベースで上昇しているが、切り上げペースが必要とされるほど速くないとしたうえ、為替介入を再開したと指摘している。また、対ドルでの人民元切り上げペースはより緩やかで、月によってはほとんど上昇しなかったと述べられている。

#### ドル買い地合いで人民元は安定化する歴史

これに関しては本欄でも幾度か指摘しているが、中国当局は為替市場全般においてドル買いが強まったときには、人民元の切り上げを停止し、対ドルで安定化させる（横ばい推移させる）傾向がある。これは、他通貨が対ドルで下落する中で人民元を切り上げた場合、実効為替レートでみると大幅に人民元高が進むためと思われる。対ドルで横ばいに維持するだけでも実効為替レートは上昇するが、米国を筆頭に国際社会の視線もあるだけに露骨な人民元安には誘導し難く、こうした対応になるのだろう。

足許では tapering 観測の後退に伴いドル安地合いとなっているが、2014年 1~3 月期に予想通り tapering が開始された場合、為替市場では再びドル買いの流れになる公算が大きい。その結果、2014 年の人民元相場は、対ドルで大幅に切り上がる可能性は低く、横ばい圏での推移が中心となりそうである。

#### 韓国に対する批判

また、近年の同報告書において筆者が注目しているのは、中国よりも韓国である。これまでの変遷を振り返ると、2012 年 5 月に公表された報告書で「我々は金融市場が無秩序な状況を除き為替介入を控えるとともに、より柔軟な為替レート（制度）を採用するよう韓国当局に圧力を掛け続ける」として韓国を牽制。

同年 11 月の報告書では「我々は金融市場が無秩序な状況を除き為替介入を控えるとともに、為替介入データの公表を含めて外国為替市場の透明性向上を約束するよう韓国当局に圧力を掛け続ける」と一段と具体的な指摘となった。

さらに、2013年4月の報告書では、為替介入データを公表している具体的な国名を例に出すなど具体性を強めたほか、マクロプルーデンス政策の実施目的についても批判し、一層厳しい視線を韓国に向けた（具体的な内容は次の段落を参照されたい）。

今回の報告書では「我々は金融市場が無秩序な状況を除き為替介入を控えるよう韓国当局に働きかけ続ける。加えて、他のほとんどのG20諸国の慣行に沿って、日本やブラジル、インド、ロシアのような新興国と同様、韓国は実施後、速やかに為替介入を明らかにすべきである。我々は（設計、時期、説明に関し）資本フローを制限や通貨高圧力の緩和よりも金融セクターのリスク低減を目的としてマクロプルーデンス政策を実施することを約束するよう韓国当局に圧力を掛け続ける」と記しており、表現こそ若干違うものの、これは2013年4月とほぼ変わらない。

今回も米国から韓国への圧力は強まった印象

だが、その後に「我々は、巨額かつ拡大している経常黒字によってもたらされる通貨高圧力に抵抗するために、韓国が市場に介入していることを懸念している。より一般的に、我々は成長エンジンとしての純輸出への依存を減らす大胆な手段を講じるよう韓国に強く促す」との文言が追加されており、やはり今回も圧力を強めていると評価できよう。

中国の経常黒字が縮小傾向にある一方で、韓国は経常黒字の拡大が続いている、2013年は2012年に続き過去最高を更新する見通しである。もちろん、経常黒字が過去最大を更新したことを理由に批判を強めるのは強引であるものの、それが生産性向上に伴う輸出競争力の改善等を要因としたものではなく、通貨安政策によって築き上げたものであった場合には批判されても仕方ない。韓国の経常黒字が通貨安によってもたらされたものかは定かではないが、為替介入のデータを公表するよう求められるのは不思議ではない。

## エマージング経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	単位	市場予想	前回値	発表値
<b>エマージングアジア</b>						
25日(金)	韓国	7~9月期 実質GDP(速報値)	前年比、%	3.1	2.3	3.3
25日(金)	シンガポール	9月 鉱工業生産	前年比、%	5.7	4.0	9.3
25日(金)	タイ	9月 輸出	前年比、%	0.50	3.9	▲ 7.10
28日(月)	タイ	9月 製造業生産	前年比、%	▲ 0.2	▲ 2.8	▲ 2.9
29日(火)	韓国	9月 経常収支	百万USドル	–	5,677	6,571
29日(火)	インド	金融政策決定会合	%	7.75	7.50	7.75
30日(水)	韓国	9月 鉱工業生産指数	前年比、%	1.9	3.2	▲ 3.6
31日(木)	台湾	7~9月期 実質GDP(速報値)	前年比、%	2.57	2.49	1.58
31日(木)	タイ	9月 経常収支	百万USドル	913	1,285	▲ 534
11月1日(金)	韓国	10月 消費者物価指数	前年比、%	1.0	0.8	0.7
1日(金)	韓国	10月 輸出	前年比、%	2.3	–	▲ 1.5
1日(金)	韓国	10月 HSBC製造業PMI	–	–	49.7	
1日(金)	中国	10月 製造業PMI	–	51.2	51.1	
1日(金)	台湾	10月 HSBC製造業PMI	–	–	52.0	
1日(金)	中国	10月 HSBC製造業PMI	–	50.7	50.2	
1日(金)	タイ	10月 消費者物価指数	前年比、%	1.44	1.42	
1日(金)	インドネシア	10月 Markit製造業PMI	–	–	50.2	
1日(金)	インドネシア	10月 消費者物価指数	前年比、%	8.44	8.40	
1日(金)	インドネシア	9月 輸出	前年比、%	▲ 6.2	▲ 6.3	
1日(金)	インド	10月 Markit製造業PMI	–	–	49.6	
3日(日)	中国	10月 非製造業PMI	–	–	55.4	
5日(火)	台湾	10月 消費者物価指数	前年比、%	1.08	0.83	
5日(火)	中国	10月 HSBCサービス業PMI	–	–	52.4	
5日(火)	シンガポール	10月 購買部景気指数	–	–	50.5	
5日(火)	フィリピン	10月 消費者物価指数	前年比、%	3.2	2.7	
5日(火)	インド	10月 Markitサービス業PMI	–	–	44.6	
6日(水)	インドネシア	7~9月期 実質GDP	前年比、%	5.70	5.81	
7日(木)	台湾	10月 輸出	前年比、%	▲ 1.1	▲ 7.0	
7日(木)	マレーシア	金融政策決定会合	%	3.00	3.00	
8日(金)	中国	10月 輸出	前年比、%	0.9	▲ 0.3	
8日(金)	マレーシア	9月 輸出	前年比、%	–	12.4	
<b>中東欧・アフリカ</b>						
31日(木)	トルコ	9月 貿易収支	億リラ	▲ 73	▲ 70	▲ 75
31日(木)	南アフリカ	9月 貿易収支	億ランド	▲ 164	▲ 191	▲ 189
11月1日(金)	トルコ	10月 製造業PMI	–	–	54.0	
1日(金)	ロシア	10月 製造業PMI	–	–	49.8	
1日(金)	南アフリカ	10月 製造業PMI	–	50.0	49.1	
4日(月)	トルコ	10月 消費者物価指数	前年比、%	–	7.88	
6日(水)	ロシア	10月 サービス業PMI	–	–	51.5	
6日(水)	ロシア	10月 消費者物価指数	前年比、%	6.1	6.1	
7日(木)	南アフリカ	9月 製造業生産	前年比、%	–	0.2	
8日(金)	トルコ	9月 鉱工業生産	前年比、%	–	▲ 0.1	
<b>ラテンアメリカ</b>						
25日(金)	ブラジル	9月 経常収支	百万USドル	▲ 2,300	▲ 5,505	▲ 2,629
25日(金)	メキシコ	金融政策決定会合	%	3.50	3.75	3.50
25日(金)	メキシコ	9月 貿易収支	百万ペソ	▲ 2,566	▲ 2,342	6,590
11月1日(金)	ブラジル	9月 鉱工業生産	前年比、%	3.0	▲ 1.2	
1日(金)	ブラジル	9月 製造業PMI	–	–	49.9	
1日(金)	ブラジル	10月 貿易収支	百万USドル	1,200	2,147	
1日(金)	メキシコ	9月 海外労働者送金	百万USドル	1,741	1,911	
5日(火)	ブラジル	10月 サービス業PMI	–	–	50.7	
7日(木)	ブラジル	10月 IPCAインフレ率	前年比、%	5.87	5.86	
7日(木)	メキシコ	10月 消費者物価指数	前年比、%	–	3.39	

(注)2013年11月1日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。

## エマージング通貨相場見通し

		2013年 1~10月期(実績)	SPOT	2013年 12月	2014年 3月	6月	9月	12月
<b>対ドル</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
韓国ウォン	(KRW)	1054.35 ~ 1162.90	1060.73	1085	1085	1085	1065	1070
台湾ドル	(TWD)	28.913 ~ 30.228	29.424	29.70	29.60	29.60	29.40	29.50
香港ドル	(HKD)	7.7503 ~ 7.7664	7.7534	7.76	7.76	7.76	7.76	7.77
中国人民元	(CNY)	6.0773 ~ 6.2492	6.0938	6.10	6.09	6.06	6.06	6.05
シンガポールドル	(SGD)	1.2195 ~ 1.2862	1.2422	1.26	1.26	1.26	1.26	1.27
タイバーツ	(THB)	28.56 ~ 32.48	31.18	32.00	31.40	31.00	30.70	31.00
インドネシアルピア	(IDR)	9603 ~ 11730	11274	11500	11650	11650	11650	11800
マレーシアリンギ	(MYR)	2.9570 ~ 3.3377	3.1554	3.26	3.26	3.24	3.18	3.25
フィリピンペソ	(PHP)	40.540 ~ 44.820	43.210	43.80	43.50	42.90	42.10	42.40
ベトナムドン	(VND)	20798 ~ 21243	21100	21300	21300	21400	21400	21500
インドルピー	(INR)	52.890 ~ 68.845	61.495	65.00	66.00	67.00	67.00	68.00
<b>中東欧・アフリカ</b>								
トルコリラ	(TRY)	1.7456 ~ 2.0841	1.9982	1.98	2.02	2.07	2.10	2.15
ロシアルーブル	(RUB)	29.8356 ~ 33.5878	32.0913	32.00	32.50	32.80	33.00	33.50
南アフリカランド	(ZAR)	8.4110 ~ 10.5096	10.0723	10.00	10.20	10.50	10.80	11.00
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	1.9419 ~ 2.4549	2.2398	2.25	2.30	2.35	2.40	2.45
メキシコペソ	(MXN)	11.9364 ~ 13.4664	13.0267	12.70	12.80	13.00	13.00	13.20
<b>対円</b>								
<b>エマージングアジア</b>								
韓国ウォン	(100KRW)	8.084 ~ 9.303	9.274	9.03	9.22	9.12	9.48	9.72
台湾ドル	(TWD)	2.977 ~ 3.480	3.343	3.30	3.38	3.34	3.44	3.53
香港ドル	(HKD)	11.110 ~ 13.366	12.687	12.63	12.89	12.76	13.02	13.38
中国人民元	(CNY)	13.872 ~ 16.919	16.143	16.07	16.42	16.34	16.67	17.19
シンガポールドル	(SGD)	70.47 ~ 82.45	79.19	77.78	79.37	78.57	80.16	81.89
タイバーツ	(THB)	2.824 ~ 3.497	3.155	3.06	3.18	3.19	3.29	3.35
インドネシアルピア	(100IDR)	0.839 ~ 1.062	0.873	0.852	0.858	0.850	0.867	0.881
マレーシアリンギ	(MYR)	28.322 ~ 34.195	31.175	30.06	30.67	30.56	31.76	32.00
フィリピンペソ	(PHP)	2.115 ~ 2.510	2.277	2.24	2.30	2.31	2.40	2.45
ベトナムドン	(10000VND)	41.53 ~ 49.70	46.62	46.01	46.95	46.26	47.20	48.37
インドルピー	(INR)	1.407 ~ 1.876	1.600	1.51	1.52	1.48	1.51	1.53
<b>中東欧・アフリカ</b>								
トルコリラ	(TRY)	46.874 ~ 56.669	49.229	49.49	49.50	47.83	48.10	48.37
ロシアルーブル	(RUB)	2.829 ~ 3.319	3.065	3.06	3.08	3.02	3.06	3.10
南アフリカランド	(ZAR)	9.245 ~ 11.245	9.766	9.80	9.80	9.43	9.35	9.45
<b>ラテンアメリカ</b>								
ブラジルレアル	(BRL)	39.764 ~ 51.020	43.919	43.56	43.48	42.13	42.08	42.45
メキシコペソ	(MXN)	6.703 ~ 8.457	7.551	7.72	7.81	7.62	7.77	7.88

(注) 1. 実績の欄は10月31日まで。SPOTは11月1日の7時50分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値などを参照。

3. 予想の欄は四半期末の予想レベル。